

# Concert Tour of Academy

## アカデミーの演奏旅行について

法政大学アカデミー合唱団を説明する際に、演奏旅行は、大切な要因となります。ここでは、アカデミーのオリジナリティであり、アイデンティティとも言える、演奏旅行（以降は、団内で通称として使用している「演旅」と略します。）についてページを割いてみたいと思います。

アカデミーの「演旅」は創立当初より、学生運動が激化して中止となった1970年を除いて、毎年ほぼ3ヵ所ずつ、50年間で延べ150ヵ所以上の土地でコンサートを開催してきました。一回のコンサートの来場者を平均800人とすると約12万人の方々々にアカデミーの歌声を届けてきたこととなります。

「演旅」の目的は、当初より大きく2つあります。「混声合唱の普及」と「地元合唱団との交流」です。「混声合唱の普及」については50年前と現在では意味が異なっていると思います。全国どこへ行っても東京以上にレベルの高い合唱団が存在し、またインターネットなどで様々な音源が容易に入手出来るようになった現在、東京から行くことだけに「普及」という偉そうな言葉は、使うのも憚られます。しかし、アカデミーの演奏に始めて接して頂く全国の一人でも多くの方々に歌声を届けたいという気持ちが、新しい「普及」という意味になるのかと思います。「地元合唱団との交流」については、人と人が直接交流することでもあり、どんなに通信手段が発達しても、現地に行き、オフラインで一人ひとりが接することに、勝るものはありません。この50年間に交流させて頂いた合唱団や合唱団員の数は、大学合唱団としては、間違いなく日本一であろうと思っています。

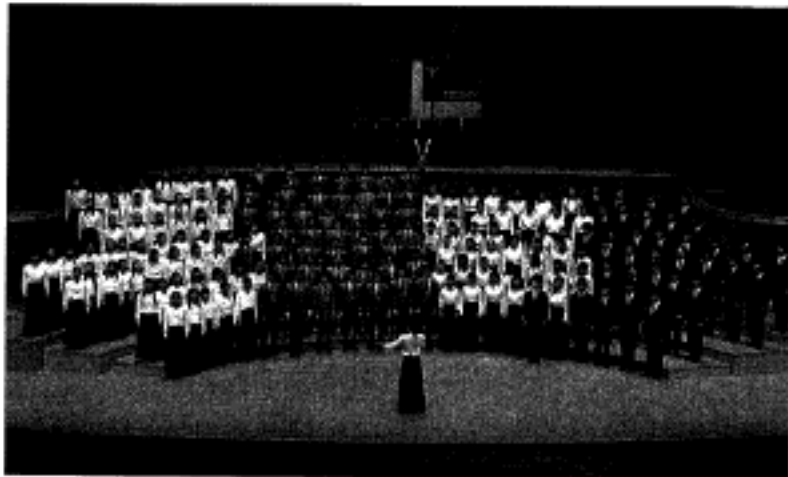
アカデミーの「演旅」が他の合唱団のそれと圧倒的に違うことが幾つかありますが、一年間の活動の集大成的な意味を持つということが一番大きな違いかと思えます。通常は、定期演奏会（以降、定演と略します。）という名のコンサートが、一年の集大成であり、4年生にとってはクラブ活動の最終ステージになります。実際に、アカデミー以外、ほぼ100%の大学合唱団は、そういう活動形態になっています。しかし、アカデミーは、少々異なります。定演は、もちろん最高の演奏を披露するのが目標であり、後期の活動のゴールですが、その後、さらに磨きをかけ、卒業式の数日前まで四年生は練習を積み、前年の4月に入団した一年生もこの時期には、ずいぶん実力をつけ、一緒に「演旅」へと旅立って行きます。学生の年度（4～3月）の最終月のステージであり、技術的にも、頂点に達した演奏を披露出来るわけです。ただし、この演奏は、地方で行われるために、団員の家族や友人でも、実際に耳に出来る人は殆どいません。一年のピークとなる演奏を東京で、定演で、披露していないということが、もしかすると意見が分かれるところかもしれません。もちろん定演に匹敵するコンサートを、全国の様々な方に聞いて頂けるということが、アカデミーにとっては一番の喜びであるのです。注：他の大学の「演旅」は、多くは夏に実施される。また、春季に実施する場合は、定演を終えた後のため、最上級生はいない。

春季に実施されるアカデミーの「演旅」ですが、1月末の期末試験を終えたアカデミーのメンバーの行動は、大きく2つに分かれます。多くの団員が含まれる側、つまり「演旅」で歌う側の団員は、昼はアルバイトに明け暮れ（「演旅」の費用を捻出するためのことが多い）、夜になると、日々都内某所に集合し（この時期、大学は入学試験のため、使用出来ない場合が多い）、練習に明け暮れます。もう一つの側が、「演旅」を迎える側、マネージャー達です。3ヵ所各2名、計6名のマネージャーは、試験が終わるのを待っていたかの様に、各地の「演旅」先へと一足先に旅立って、事前準備を始めます。この滞在は、コンサート終了後まで一ヶ月半近くになる長丁場で、ウィークリーマンション等を借りる場合もあれば、OBの家に居候する者など、様々です。現地の校友会、後援会、合唱連盟などの地縁や紹介を活かして、プログラムの広告取りやチケット売りに奔走し、東京から来る団員を迎える準備を進めていきます。これが、他の大学合唱団の「演旅」と大きく異なるもう一つの点です。つまり、地方においても自分たちが主催し、運営するコンサートをやっているのです。多くの大学合唱団のそれは、地元の校友会等、別の主催者が存在する場合が多く、団自身がリスクを迫ることは少ないといえます。あるいは、指導者自らが学生に代わって現地に飛んで準備する団もあると聞きます。しかし、アカデミーは創立時から、学生の主催でコンサートを開催し続けてきました。もちろん、法政というマスプロ大学の利点を最大限に活かして、全国に点在されている法政大学OB（校友会という同じ大学を卒業したという繋がり）や、後援会（お子様が法政の学生であるという繋がり）に、パンフレットへ広告を掲載して頂いたり、チケットを買って頂いたりしているのは事実でもあり、過去何千人、何万人という方の厚情に支えられてのコンサートです。でも、そこに人と人の繋がりも生まれています。

マネージャーの準備は、前年の「演旅」が終わった後、一年程前から始まります。パンフレットに載っている過去の「演旅」先の日本地図とにらめっこしながら、翌春に自分たちの歌声を届けたい土地の名前を挙げ、大学の校友会や後援会等とも相談して、「演旅」先の選定を行います。稀に自分の生まれた土地でコンサートを開くことが出来る運のいいマネージャーもいますが、殆どのマネージャーは、行ったこともない土地のコンサートホールの選定から始め、夏休みの頃から何度かに亘って現地を訪れ、様々な人脈ネットワークを築いていきます。そして並行して、一緒にコンサートに出演して頂ける合唱団を探します。この時にアカデミーの「演旅」の強みが発揮されます。大学合唱団の地方でのコンサートは、出費を抑えるために、学生指揮者を中心としたプログラムで構成する場合があります。アカデミーの場合は必ず、東京のコンサートと同じ先生方に同行して頂き、東京と同じプログラムを組みます。なので、過去、福永陽一郎先生や関屋晋先生に指揮をして頂いた当時は、コンサートで実際に先生が現地に訪れる、という旨を地元の合唱連盟に相談すると、直ぐに一緒に出演して頂ける合唱団を紹介して頂いたものです。さらにこの十年程は、浅井敬壹先生に同行して頂いていますが、先生のご意向もあり全日本合唱コンクールで金賞、銀賞等の受賞団体とも共演する機会を頂いています。単なる賛助出演ではなく、ジョイントという形式を取って、同じステージで隣に立ち、一緒に歌う機会を頂いています。過去の共演団体を次ページに一覧表として掲載しましたが、何度も共演頂いている京都エコー、安積黎明高校（旧・安積女子高校）をはじめ、全国トップクラスの合唱団と一緒に歌うことが出来るのがアカデミーの「演旅」でもあります。つまり最高のメリットを享受しているのは、実はアカデミー自身と言えるのです。

国府駅の青函連絡船乗り場にて。  
最前列に福永先生（1976年3月）

毎年、春の声を聞く頃になると、アカデミーは、全国の「演旅」先へと出掛けて行きます。アカデミーの「演旅」は、物見遊山的な要素は非常に少なく、さらに現地で共演団体との練習が組まれる場合も多く、観光は、むしろ「演旅」が終了してから船路の楽しみです。一ヵ所、二ヵ所と旅情を楽しむ暇もなくコンサートは開催され、気が付くと最終地。多くの者が、思い出に万感の想いを寄せて、溢れる涙と共に、最終地のコンサートは、幕を閉じます。



北海道大学混声合唱団とジョイントコンサート  
札幌コンサートホール Kitara (2009年3月)

ところで、「演旅」では、東京のコンサートでは聴くことが出来ない曲、「演旅」でしか歌わないという2つの曲があります。1曲は、ミュージカル「ラ・マンチャの男」の「Impossible Dream」。「見果てぬ夢」という邦題が付くこの曲は、正に一年間の活動を締めくくるのに相応しい曲といえます。そしてもう1曲が、一年に一度、「演旅」の最終地の最終ステージのアンコールでだけ歌われる「My Way」。この曲が4年生にとっては卒団の曲であり、その年のメンバーで歌う最後の曲になります。この2曲とも福永先生の編曲であり、特に「My Way」は、日本語詞も福永先生によるものです。「そこにはいつでも、歌がある」という言葉で終わるこの曲の歌詞を、今回のコンサートチラシのコピーとさせて頂いたのは、そんな理由からでもあります。「そこには」の「そこ」という言葉には、単純な場所の意味ではなく、現役もOBも含めたアカデミーの全てのメンバーの心の中に「歌がある」、そして「アカデミーがある」という意味と考えています。

アカデミーが存在し続ける限り、「演旅」は続いて行くはずで、「そこにはいつでも、歌がある」から。

最後に、福永先生が毎年「演旅」パンフレットに寄稿して頂いていた当時の文章を転記して、このページを終えます。

『学生団体の演奏旅行について、あまり芳しくない風評が伝わる場合があります。その合唱団の定期演奏会がいつも好評であるのに、旅行に出た先での演奏が、それほど効果をあげないのが第一の原因なのだろうかと思えます。』

法政大学アカデミー合唱団が心掛けていることは、ですが、少し違うことにあります。言うまでもなく、法政大学アカデミー合唱団においても、年に一度の定期演奏会は、その年の決算であり、たくわえた力の発表の場であり、その成否は、その年のクラブのありかた全体にとって、もっとも重要な問題であることには変わりはありません。けれども、一方では、定期演奏会だけが大切なことで、年間を通じた活動の全てがそこに集約されるというのでは、大学の合唱団として、あまりにも偏った狭き日常生活だとも考えられます。

クラブ活動は、と言うよりも、アマチュアの音楽活動は、一日一日の生活の中に音楽の喜びが感じられるといったものであるべきで、一年を周期として、一度だけのピークのために、日常の時間が犠牲になってはいけません。定期演奏会は大切な行事ですが、そのほかの毎日毎日、音楽を楽しみ、音楽をやることの意味をつかみ取るような日々でありたいものです。

ですから、東京を離れて旅行をし、その旅先で歌を聴いて頂くことも、東京のステージと同様、聴く人のためというより、アカデミー合唱団自身の喜びでなければなりません。

法政のアカデミー合唱団は、創立以来、学園紛争の年の一回を除いて、休みなく春の演奏旅行をやってきました。その旅行での演奏会は、すべて自己主催で、全員参加で行われます。もちろん、地元の方々の協力なしには、何事も実行出来ませんが、地元主催の会で当然予想される種々の制限から自由になってこそ、東京での定期演奏会と同様の成果を期待出来るので、いままでもうやってきましたし、かえって地元の方からも喜んで頂きました。先乗りで苦勞しているマネージャーたちは、この上ない社会勉強をしていますし、合唱団全部が、親類家族でないお客様に対して、ともに音楽を味わった感動を伝えようと、より以上の集中でステージに立つわけです。

今年度は、久しぶりに全日本のコンクールに出場しました。このことで得た利益は、目に見えないながら、大きなものであったと思うのですが、慣れないためにスケジュール調整がうまくいかず、それゆえ、定期演奏会そのものは、練習不足のまま開催されてしまいました。それだけに、私や団員たちのこの演奏旅行にかけた重みは、非常に大きいものになっております。例年のように、また例年以上に、様々な経験を持った一年でしたが、この春の演奏旅行は、文字どおり総決算であって、以前そうであったような定期演奏会の繰り返しではなく、より新しくより大きな音楽の喜びのための挑戦なのです。

準備の段階での、そして賛助出演の方々をはじめ、本日ここにお集まりの、心温かき人々に、深い感謝の意を表するとともに、少しでも多くの人々と、今日の私たちの喜びを分かち合えたら、これ以上の幸せはございません。』

(1973年 東海・山陰地方演奏旅行プログラムより)

(22期・石井雅巳)

# List of Support and Joint Choir

## 賛助・ジョイント団体一覧

アカデミー合唱団では、演奏旅行の際、「地元合唱団との交流」という目的に沿って、多くの合唱団に賛助出演をして頂いたり、ジョイントコンサートを開催してきました。

以下に、その合唱団をご紹介しますとともに、この誌面を借りて、共演頂いたお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

また、春の声を聴く頃に日本中のどこかの街にお邪魔したいと思っています。日本中の合唱団の方と共演出来る日を楽しみに、そして日本中に私たちの歌声を届けるために。

年	場所	共演団体	場所	共演団体	場所	共演団体
1963	西条	—	広島	—	似島	—
	松山	—				
	青森	—				
1964	熊本	—	宮崎	—	小倉	—
	福岡	—				
1965	名古屋	—	津	—	浜松	—
	秋田	秋田男声合唱団				
1966	宇部	—	呉	—	防府	—
	京都	合唱団京都エコー	鹿児島	鹿児島大学フロイデコール	名護	—
1967					コザ	—
					那覇	沖縄混声合唱団
1968	青森	—	札幌	たくざん銀声会	旭川	—
	徳島	徳島合唱団/徳島大学リーダーークライス	松山	愛媛大学合唱団	広島	広島コール・アカデミー
1969	福岡	—				
1970	中止					
1971	西宮	コーロ・ポルテニオ	京都	合唱団京都エコー	金沢	中央公民館合唱団/MOR放送合唱団
1972	福島	FMC混声合唱団	仙台	グリーン・ウッド・ハーモニー	山形	木曜会合唱団
1973	名古屋	—	鳥取	鳥取市民合唱団	松江	合唱団みずうみ
1974	長野	長野市民合唱団コール・アカデミー	富山	K&クルー	新潟	しろがねコーラス
1975	北九州	北九州音楽合唱団	長崎	長崎県立短大フェミナルエコー	熊本	熊本混声合唱団
1976	青森	青森市民混声合唱団	函館	—	札幌	響友会
1977	高松	高松第一高校音楽部	徳島	—	高知	フラワーソングクラブ
1978	盛岡	岩手大学合唱団	仙台	—	福島	桜の聖母学院高校合唱団
1979	大阪	合唱団京都エコー	広島	崇徳高校グリークラブ	福岡	混声合唱団トニカ
1980	長野	長野西高校合唱団	富山	—	金沢	中央公民館合唱団
1981	岡山	—	宇部	宇部高校混声合唱団	松江	松江市民合唱団
1982	青森	混声合唱団グリーンコール	函館	—	札幌	札幌大谷短期大学輪声会
1983	静岡	静岡合唱団	岐阜	コール・ファンシエール	和歌山	和歌山市民合唱団/和歌山児童合唱団
1984	熊本	県立第一高校合唱団	鹿児島	鹿児島混声合唱団	宮崎	宮崎ほまゆうコーラス
1985	宇都宮	リトルコール静岡	新潟	合唱団ユートライ	郡山	県立安積女子高校合唱団
1986	広島	広島ジュニアコーラス	福岡	西南学院グリークラブ	長崎	長崎混声合唱団
1987	愛知	クール・ジョワイエ	金沢	金沢混声合唱団	神戸	神戸中央合唱団
1988	倉敷	女声合唱団ゆう	下関	女声合唱団クールソレイユ	松山	松山市民合唱団
1989	仙台	グリーン・ウッド・ハーモニー	天童	天童混声合唱団	青森	混声合唱団グリーンコール
1990	長野	長野市民合唱団コール・アカデミー	富山	女声合唱団クールクロア	尼崎	伊丹混声合唱団
1991	福岡	混声合唱団トニカ	熊本	県立第一高校合唱団		
1992	福島	FMC混声合唱団	秋田	秋田女声合唱団	函館	コールフロイデ
1993	岐阜	長良高校コーラス部/ハモレ'莫良'	米子	山陰放送少年合唱団	松江	松江北高校合唱部
1994	北九州	北九州混声合唱団	宮崎	宮崎少年少女合唱団	大分	アンジェルス児童合唱団
1995	盛岡	ローゼンコール	酒田	SAKATAローゼンコール	新潟	合唱団ユートライ
1996	岡山	女声合唱団ゆう	徳山	男声合唱団メールソレイユ	広島	フェミニンコール
1997	和歌山	和歌山児童合唱団	守口	女声合唱団アザレア	浜松	浜松市立高校合唱団
1998	宮古島	平良市少年少女合唱団	沖縄	混声合唱団「くわんぼ」	那覇	沖縄女子短大付属高校合唱部
1999	岩見沢	岩見沢混声合唱団	小樽	ローゼンコール	札幌	札幌アカデミー合唱団
2000	群馬	県立安積高校/安積女子高校	弘前	弘前ブルネンコール	青森	混声合唱団グリーン・コール
2001	福岡	九州フレッシュメンコア/北九州メロリア女声合唱団	鳥栖	鳥栖フラウエンコール/鳥栖市民合唱団	熊本	県立第一高校合唱団
2002	京都	合唱団京都エコー	奈良	Choeur Chene/エコーフローラ	大阪	淀川混声合唱団
2003	徳島	合唱団ノース・エコー	三重	三重大学合唱団/ヴォーカルアンサンブル(NEST)	岐阜	—
2004	神戸	はもーるKOBÉ	福井	福井コール・アカデミー	金沢	金沢混声合唱団
2005	盛岡	不末方高校音楽部	仙台	グリーン・ウッド・ハーモニー	福島	安積合唱協会
2006	広島	マツダ合唱団	岡山	女声合唱団新え木/高梁高校コーラス部	松江	ソリストアンサンブル
2007	長岡	長岡混声合唱団	富山	クールクワア/ヴォーチェ・フォンターナ・コール	長野	信州大学混声合唱団
2008	大分	大分市民合唱団ウイステリア・コール	鹿児島	女声合唱団ハモール	宮崎	県立妻高校女声合唱団
2009	函館	女声コーラストラ	札幌	北海道大学混声合唱団	小樽	小樽市役所グリークラブ
2010	名古屋	合唱団ノース・エコー	浜松	浜松合唱団		
2011	青森	青森アカデミー混声合唱団	郡山	市立第二中学校/県立安積高校/安積豊明高校	宇都宮	ミモザ合唱団

■は、ジョイントコンサートとして、開催されました。